

環境経営レポート

(レポート対象期間 : 2023年4月 ~ 2024年3月)



本社工場



岡山工場



発行日 : 2024年07月31日

目 次

| 項 目 | ページ |
|--|-------|
| 1、ごあいさつ | 3 |
| 2、環境経営方針、環境経営目標 | 4 |
| 3、組織の概要 | 5 |
| 4、事業の紹介 | 6 |
| 5、役割・責任・権限表 | 7 |
| 6、主な環境負荷の実績(全社合計と工場別割合) | |
| 7、主な環境負荷の実績(本社工場) | 8 |
| 8、環境経営目標(基準年の環境負荷と目標) 環境経営計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容 | 8～10 |
| 9、環境活動の紹介(本社工場) | |
| 10、緊急事態対応訓練(本社工場) | 11 |
| 本社工場・岡山工場 事業継続計画(BCP)の運用実施 HCCPIによる衛生管理の強化 | |
| 11、主な環境負荷の実績(岡山工場) | 12 |
| 12、環境経営目標(基準年の環境負荷と目標) 環境経営計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容 | 12～13 |
| 13、環境活動の紹介(岡山工場) | 14 |
| 14、緊急事態対応訓練(岡山工場) | |
| 15、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無 | 15 |
| 16、代表者による全体の評価と見直し・指示 | 16 |
| 17、みんなの声 | 17 |

食を通じて人々の暮らしに貢献する

ロイヤルデリカ株式会社は伊藤ハムグループの一員として1988年に創業し、大手コンビニエンスストア様向けに調理パン・お惣菜・サラダ・軽食を日々製造出荷している会社です。

私たちの仕事は安全・安心な商品を毎日きちんとお店にお届けすることです。

そしてお買い求めいただいたお客様が「美味しい」と言ってくださることを何よりの喜びと思っております。

当社ではそういったお客様の声が聞きたくて商品開発、生産管理、品質管理、商品製造の各部門が力を合わせてより良い商品づくりを目指し業務に励んでおります。

世の中の移り変わりに伴いコンビニエンスストアの在り方も変わってまいりました。いまでは地域社会に溶け込み、小さなお子様からお年寄りまで幅広い方々にご利用頂き、まさに人々の暮らしを支える存在になりました。

私たちロイヤルデリカは『食を通じて人々の暮らしに貢献する』を社是とし、「おいしい食事」「安全・安心な食事」を通じて、皆さまの日々の暮らしの中に喜び・楽しみ・感動をお届けできる会社になれるよう一層の努力をしております。

ロイヤルデリカ株式会社 代表取締役社長

本賀田 昌彦

企業目標

- 1、お客様から信頼される企業になること。
- 1、質的No.1デリーメーカーとなること。
- 1、従業員の幸せな社会生活を支えること。
- 1、会社の経営目標を達成すること。
- 1、地域と協調し、広く社会に貢献すること。



2、環境経営方針、環境経営目標

環境経営方針

私たちロイヤルデリカ株式会社は、安心・安全な食品をお客様にお届けすることを責務とし、食品安全の実現には地球環境の保全が最重要課題との認識のもと、生活の質の向上や自然の大切さの啓発などの価値の再評価を心掛け、持続可能な社会の実現に寄与すべく努力してまいります。

働きやすい職場の実現を目指すなかで、創意工夫による衛生管理の徹底と効率的な生産性向上を通して、以下の継続的な改善を推進します。

- ・生産の効率化による二酸化炭素排出量削減
- ・歩留向上による食品廃棄物削減
- ・洗浄方法の改善による水使用量削減
- ・HACCPによる衛生管理の徹底
- ・適用される環境関連法規等の遵守を誓約する
- ・環境保全に関する社内体制の構築と、従業員教育の徹底と意識向上に務める

環境経営目標

- ・電力、ガスによる二酸化炭素削減
- ・食品廃棄物発生抑制・食品リサイクル率維持向上
- ・水使用量削減
- ・HACCPによる衛生管理の強化
- ・事業継続計画（BCP）の運用実施
- ・安全で安心ができる美味しくヘルシーな商品開発

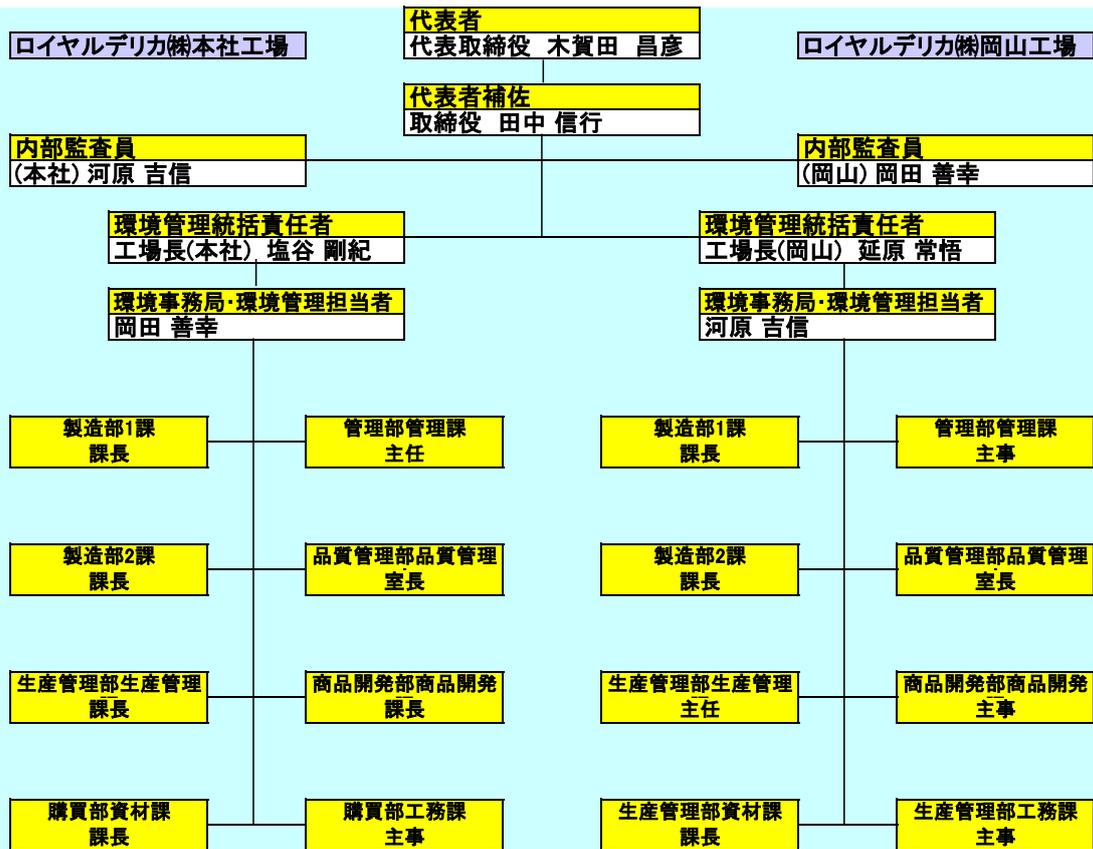
制定日：2023年04月01日

ロイヤルデリカ株式会社 代表取締役社長

本賀田 昌彦



3. 組織の概要



4、事業の紹介

(1) 事業者名及び代表者名

ロイヤルデリカ株式会社
代表取締役社長 木賀田 昌彦

(2) 所在地

本社工場
〒370-0884 群馬県高崎市八幡町 409
電話：027-344-2222（代）

岡山工場
〒709-0852 岡山県岡山市東区瀬戸町肩脊 1320-3
電話：086-908-0011（代）

(3) 環境管理統括責任者・環境管理担当者氏名

| | | | |
|------|-----------|--------------|-------|
| 本社工場 | 環境管理統括責任者 | 工場長 | 塩谷 剛紀 |
| | 環境管理担当者 | 本社工場購買部環境担当 | 岡田 善幸 |
| 岡山工場 | 環境管理統括責任者 | 工場長 | 延原 常悟 |
| | 環境管理担当者 | 岡山工場生産管理部工務課 | 河原 吉信 |

(4) 事業内容

コンビニエンスストア向けの惣菜・軽食・調理パン
などの開発・製造

(5) 事業の規模

| | | |
|------|----------|----------------------------|
| 本社工場 | 従業員 428名 | 延べ床面積 6,307 m ² |
| 岡山工場 | 従業員 485名 | 延べ床面積 6,434 m ² |



5、役割・責任・権限

| | 役割・責任・権限 |
|---------------------------|--|
| 代表者(代表取締役社長) 代表補佐(取締役) | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認 |
| 統括環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を承認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境レポートの確認 |
| 環境事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付) |
| 環境管理担当者 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境に関する内部監査の実施・報告 |
| 部署担当者 推進者 | <ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 |
| 内部監査員 | <ul style="list-style-type: none"> 環境に関する内部監査の計画 環境に関する内部監査の実施・報告 |
| 全従業員 | <ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加 |

6、主な環境負荷の実績(全社合計)

(全社合計)

| 項目 | 単位 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|
| 二酸化炭素総排出量 | kg-CO2 | 9,053,188 | 8,087,212 | 6,286,267 |
| 廃棄物排出量 | kg | 3,722,576 | 3,028,761 | 2,323,309 |
| 一般廃棄物排出量 | kg | 1,997,655 | 1,139,748 | 811,741 |
| 産業廃棄物排出量 | kg | 1,724,921 | 1,889,013 | 1,511,568 |
| 食品廃棄物排出量 | kg | 437,724 | 1,169,363 | 928,029 |
| 使用水使用量 | m | 298,879 | 287,100 | 247,829 |

(工場別割合)

| 項目 | 工場名 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|-----------|------|--------|--------|--------|
| 二酸化炭素総排出量 | 本社工場 | 34.1% | 36.8% | 40.6% |
| | 岡山工場 | 65.9% | 63.2% | 59.4% |
| 廃棄物排出量 | 本社工場 | 25.6% | 32.5% | 30.0% |
| | 岡山工場 | 74.4% | 67.5% | 70.0% |
| 一般廃棄物排出量 | 本社工場 | 12.9% | 22.0% | 21.9% |
| | 岡山工場 | 87.1% | 78.0% | 78.1% |
| 産業廃棄物排出量 | 本社工場 | 40.4% | 38.8% | 34.4% |
| | 岡山工場 | 59.6% | 61.2% | 65.6% |
| 食品廃棄物排出量 | 本社工場 | 84.8% | 32.1% | 27.1% |
| | 岡山工場 | 15.2% | 67.9% | 72.9% |
| 使用水使用量 | 本社工場 | 50.5% | 48.4% | 52.3% |
| | 岡山工場 | 49.5% | 51.6% | 47.7% |

7、主な環境負荷の実績(本社工場)

| (本社工場) | | | | |
|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|
| 項目 | 単位 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 二酸化炭素総排出量 | kg-CO2 | 3,090,817 | 2,976,562 | 2,551,517 |
| 廃棄物排出量 | kg | 953,892 | 983,946 | 697,373 |
| 一般廃棄物排出量 | kg | 257,855 | 251,168 | 178,060 |
| 産業廃棄物排出量 | kg | 696,037 | 732,778 | 519,313 |
| 食品廃棄物排出量 | kg | 371,224 | 375,658 | 251,334 |
| 使用水使用量 | m | 150,879 | 139,028 | 129,624 |

8、環境経営目標(基準年の環境負荷と目標)

環境経営計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容(本社工場)

(目標 2023年度、各項目基準年度より目標1%削減、食品廃棄物再資源化実施率は100%)

| 項目 | 単位 | 本社工場 | | | | |
|--------------|-------------------------------|----------------|--------------|--------------|--------------|-----------|
| | | 基準年度 2022年度 | 目標 2023年度 | 目標 2024年度 | 目標 2025年度 | |
| 電気 | 使用量 | kWh | 3,138,066 | 3,106,685 | 3,075,305 | 3,043,924 |
| | 原単位(使用量) | kWh/百万円 | 710.60 | 703.49 | 696.39 | 689.28 |
| | 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 1,430,958 | 1,416,649 | 1,402,339 | 1,388,029 |
| LPGガス | 使用量 | kg | 60,064 | 59,463 | 0 | 0 |
| | 原単位(使用量) | kg/百万円 | 13.60 | 13.47 | 0.00 | 0.00 |
| | 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 180,192 | 178,390 | 0 | 0 |
| A重油 | 使用量 | L | 426,800 | 422,532 | 418,264 | 413,996 |
| | 原単位(使用量) | L/百万円 | 96.65 | 95.68 | 94.71 | 93.75 |
| | 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 1,156,628 | 1,145,062 | 1,133,495 | 1,121,929 |
| 都市ガス | 使用量 | m ³ | 0 | 56,878 | 0 | 0 |
| | 原単位(使用量) | L/百万円 | 0.00 | 13.13 | 0.00 | 0.00 |
| | 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 0 | 122,856 | 0 | 0 |
| 上記二酸化炭素排出量合計 | 原単位(CO2) | kg-CO2/百万円 | 261.91 | 259.29 | 256.67 | 254.06 |
| | 発生量 | kg | 2,767,778 | 2,740,100 | 2,535,834 | 2,509,959 |
| | 原単位(発生量) | kg/百万円 | 206.892 | 204.823 | 202.754 | 200.685 |
| 一般廃棄物 | 発生量 | kg | 47.75 | 47.27 | 46.79 | 46.31 |
| | 原単位(発生量) | kg/百万円 | 180.636 | 178.830 | 177.023 | 175.217 |
| 廃プラ | 発生量 | kg | 40.90 | 40.50 | 40.09 | 39.68 |
| | 原単位(発生量) | kg/百万円 | 294.484 | 291.539 | 288.594 | 285.649 |
| 食品廃棄物 | 発生量 | kg | 66.68 | 66.02 | 65.35 | 64.68 |
| | 再資源化実施率 | % | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 使用水 | 発生量 | kg/百万円 | 119,604 | 118,408 | 117,212 | 116,016 |
| | 原単位(使用量) | m/百万円 | 27.08 | 26.81 | 26.54 | 26.27 |
| 化学物質使用量 | 洗浄・洗濯に使用するためと、少量使用のため目標に掲げません | | | | | |

| 活動計画 活動項目・取組内容 | 評価 | | 目標 | | 評価及び次年度取組内容 |
|--|------|---|----|--|--|
| | 工場 | 2023年度実績 | 判定 | 2023年度 | |
| 【取組内容】 本社工場 ・空調温度の適正化(事務所等:冷房27℃ 暖房22℃)。 ・製造現場空調機の温度確認。 ・不要照明の消灯。 ・空調機のフィルターの定期的清掃・交換。 ・設備の定期点検と予防保全の実施。 ・排水処理施設曝気量インバーター調整 ・非常灯付照明、LED照明に交換 | 本社工場 | 電気使用量 3,092,571 kWh 基準年比 98.6% | ○ | 電気使用量 3,106,685 kWh 基準年比1%減 | 駆動モーターVベルト使用変更。 常時点灯非常灯照明省エネLEDへ変更。 排水処理施設調整槽フロー間欠運転による電気使用量削減。 排水処理施設曝気、返送汚泥ポンプ間欠運転による電気使用量削減。 間接部門、会議室、食堂の照明に個別スイッチ取付け。 【次年度取組内容】 夏期に向けての省エネ対策。 設備の運転状況を把握し設定を調整。 更新した方がよい設備の更新。 人感センサー照明を設置。 |
| | | 原単位(使用量) 713.69 kWh/百万円 基準年比 100.4% | × | 原単位(使用量) 703.49 kWh/百万円 基準年比1%減 | |
| | | 二酸化炭素排出量 1,206,103 kg-CO2 基準年比 84.3% | ○ | 二酸化炭素排出量 1,416,649 kg-CO2 基準年比1%減 | |
| | | 原単位(CO2) 278.34 kg-CO2/百万円 基準年比 85.9% | ○ | 原単位(CO2) 320.79 kg-CO2/百万円 基準年比1%減 | |
| 【取組内容】 本社工場 ・生産機器稼働状況確認。 ・生産機器業者による定期点検。 ・GHP空調機の業者による点検。 | 本社工場 | LPGガス使用量 54,334 kg 基準年比 90.5% | ○ | LPGガス使用量 59,463 kg 基準年比1%減 | フライヤー、ジェットオープンの空運転が見受けられる。 製造のやり直しが多かった。 加熱室フライヤーの種火の不着火で修理及びバーナー部清掃を実施。 さつまいも及びリンゴのバリバリチップ推奨により、フライヤー使用時間増加 都市ガス燃料転換によりLPGガス使用量削減。 【次年度取組内容】 都市ガスへの燃料転換後でLPGガスの使用がなくなる。 |
| | | 原単位(使用量) 12.54 kg/百万円 基準年比 92.2% | ○ | 原単位(使用量) 13.47 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| | | 二酸化炭素排出量 163,002 kg-CO2 基準年比 90.5% | ○ | 二酸化炭素排出量 178,390 kg-CO2 基準年比1%減 | |
| | | 原単位(CO2) 37.62 kg-CO2/百万円 基準年比 92.2% | ○ | 原単位(CO2) 40.40 kg-CO2/百万円 基準年比1%減 | |

※ 電力、二酸化炭素排出係数 R4年度実績 R5.12.22 環境省・経済産業省公表、R6.7.19一部追加・更新
 本社工場 | 東京電力エネジーパートナー(株) | 二酸化炭素排出係数 0.390

| 活動計画 活動項目・取組内容 | 評価 | | | 目標 2023年度 | 評価及び次年度取組内容 |
|--|------|--|----|---|--|
| | 工場 | 2023年度 実績 | 判定 | | |
| A重油による使用量・二酸化炭素削減 【取組内容】 本社工場 ・蒸気配管の点検、保温。 ・蒸気圧力の確認。 ・ボイラ業者による定期点検。 ・蒸気使用機器の確認(未使用機器)。 | 本社工場 | A重油使用量 388,800 L 基準年比 91.1% | ○ | A重油使用量 422,532 L 基準年比1%減 | ・加熱室の生産機器、洗浄室の洗浄機の蒸気漏れが多発。 ・出荷番重をお湯洗浄から水洗浄に変更。 ・出荷番重の汚れが落ちないため、水洗浄からお湯洗浄に変更。 【次年度取組内容】 ・都市ガスへの燃料転換後でA重油の使用がなくなる。 |
| | | 原単位(使用量) 89.73 L/百万円 基準年比 92.8% | ○ | 原単位(使用量) 95.68 L/百万円 基準年比1%減 | |
| | | 二酸化炭素排出量 1,053,648 kg-CO2 基準年比 91.1% | ○ | 二酸化炭素排出量 1,145,062 kg-CO2 基準年比1%減 | |
| | | 原単位(CO2) 238.59 kg-CO2/百万円 基準年比 91.1% | ○ | 原単位(CO2) 259.29 kg-CO2/百万円 基準年比1%減 | |
| 一般廃棄物削減 【取組内容】 本社工場 ・分別の徹底。 ・コピー用紙使用量の表面再利用。 ・ペーパーレス化(帳票類電子化、カミナシ)。 | 本社工場 | 一般廃棄物発生量 178,060 kg 基準年比 86.1% | ○ | 一般廃棄物発生量 204,823 kg 基準年比1%減 | ・検査、検査品、社販の売れ残りが一般廃棄物に廃棄されていたので、食品廃棄物で廃棄するよう変更。 【次年度取組内容】 ・カミナシ運用の拡大。 |
| | | 原単位(発生量) 41.09 kg/百万円 基準年比 86.1% | ○ | 原単位(発生量) 47.27 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| 廃プラ廃棄物の削減 【取組内容】 本社工場 ・分別の徹底。 ・コピー用紙の削減(裏紙を使用)。 ・ペーパーレス化(帳票類電子化、カミナシ)。 | 本社工場 | 廃プラ廃棄物発生量 165,723 kg 基準年比 91.7% | ○ | 廃プラ廃棄物発生量 178,830 kg 基準年比1%減 | ・消耗品の発注量の見直しを行う。 ・週1回巡視の食品安全工場巡視をカミナシで行う。 ・消耗品が多く出庫されている。 ・分別がされていない 【次年度取組内容】 ・焼却用廃プラを再分別リサイクルビニールへ。 ・カミナシ運用の拡大。 ・分別の再教育。 |
| | | 原単位(発生量) 38.24 kg/百万円 基準年比 93.5% | ○ | 原単位(発生量) 40.50 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| 食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上 【取組内容】 本社工場 ・生産工程の歩留り管理の徹底。 ・製造ロスの削減。 ・社販販売による食品廃棄物の削減。 ・野菜残渣、生ゴミ処理機での減量。 ・マニュアル通りの工程を行っているか調査。 | 本社工場 | 食品廃棄物発生量 251,334 kg 基準年比 85.3% | ○ | 食品廃棄物発生量 291,539 kg 基準年比1%減 | ・パスタ類の残渣を生ゴミ処理機で処理を実施。 ・検査、検査品、社販の売れ残りが一般廃棄物に廃棄されていたので、食品廃棄物で廃棄するよう変更。 ・野菜類のスライス不良が多発。 ・製造ミスが多いため食品残渣が発生。 【次年度取組内容】 ・野菜残渣以外の食品残渣が生ゴミ処理機で処理できるか検討。 ・製造ミスが発生しないよう製造工程の管理強化をはかる。 |
| | | 再資源化実施率 100% 基準年比 100% | ○ | 再資源化実施率 100% 基準年比100% | |
| | | 原単位(発生量) 58.00 kg/百万円 基準年比 87.0% | ○ | 原単位(発生量) 66.02 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| 使用水の削減 【取組内容】 本社工場 ・節水の呼びかけ、表示。 ・水道配管からの漏水を定期的に点検。 | 本社工場 | 使用水使用量 129,357 m ³ 基準年比 108.2% | × | 使用水使用量 118,408 m ³ 基準年比1%減 | ・水の流しっぱなしが見受けられる。 ・漏水箇所が多い。 【次年度取組内容】 ・生産に支障がない箇所の水量調整。 ・始業点検の強化をはかる。 |
| | | 原単位(使用量) 29.85 m ³ /百万円 基準年比 110.2% | × | 原単位(使用量) 26.81 #REF! 基準年比1%減 | |
| 都市ガスによる使用量・二酸化炭素削減 【取組内容】 本社工場 ・データ収集。 | 本社工場 | 都市ガス使用量 56,878 m ³ 基準年比 #DIV/0! | — | 都市ガス使用量 0 m ³ 基準年比1%減 | ・2024年2月中旬、A重油及びLPGガスより燃料転換。 ・2024年度はCO2排出量の削減が見込まれる。 【次年度取組内容】 ・2024年度はデータ収集し、2025年度に省エネの取組みを行う。 ・ハスタボイラーか番重洗浄機に熱交換器の設置を検討 |
| | | 原単位(使用量) 13.13 kg/百万円 基準年比 #VALUE! | — | 原単位(使用量) 0.00 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| | | 二酸化炭素排出量 122,856 kg-CO2 基準年比 #DIV/0! | — | 二酸化炭素排出量 0 kg-CO2 基準年比1%減 | |
| | | 原単位(CO2) 28.75 kg-CO2 基準年比 #DIV/0! | — | 原単位(CO2) 0.00 基準年比1%減 | |
| 化学物質使用量 | 本社工場 | 洗浄・洗濯に使用するためと、少量使用のため目標に掲げません | | | |

※ 食品廃棄物発生量内訳

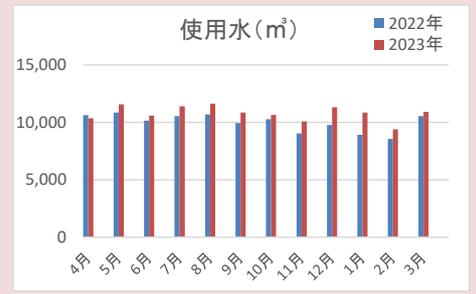
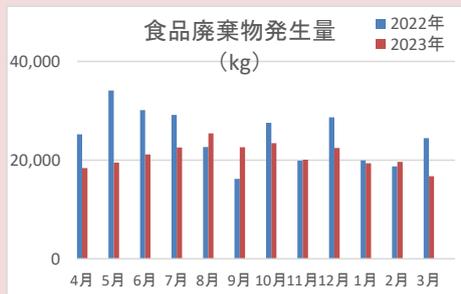
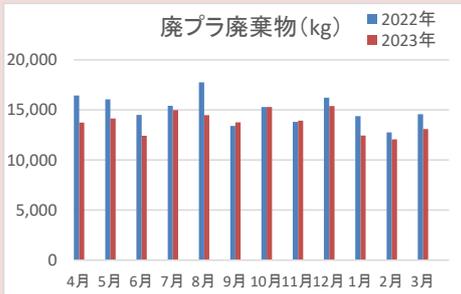
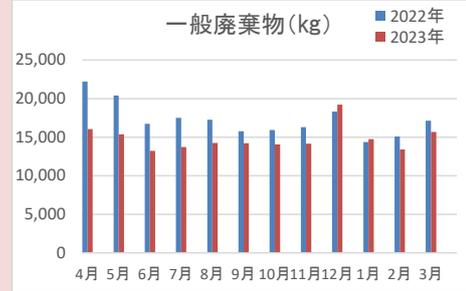
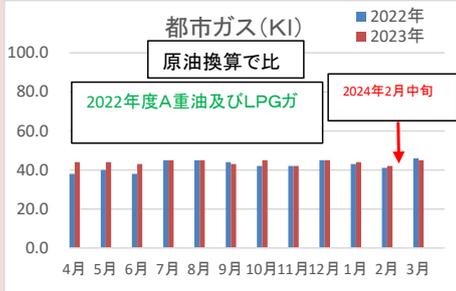
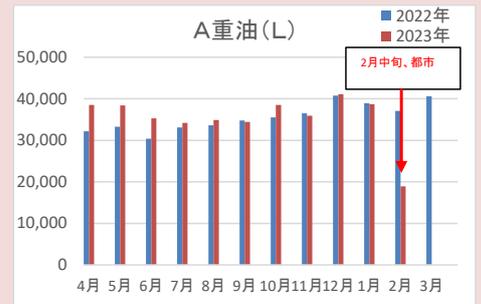
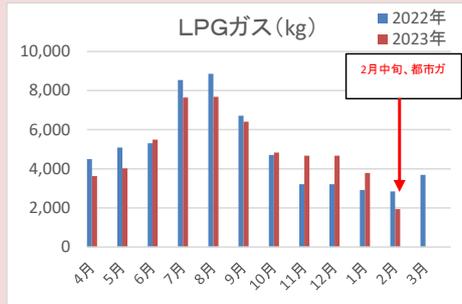
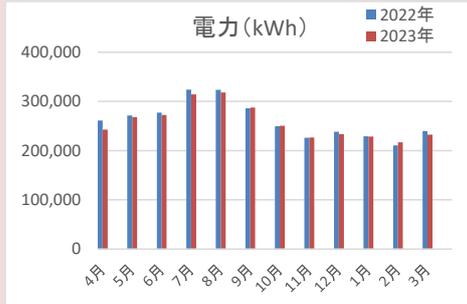
| 本社工場 | 2022年度 | 食品残渣(製造ロ) | 108,550 | kg | ハイガス・肥料・肥料 | 2023年度 | 食品残渣(製造ロ) | 113,050 | kg | ハイガス・肥料・肥料 |
|------|--------|-----------|---------|----|------------|--------|-----------|---------|----|------------|
| | | 廃油 | 47,460 | kg | インク類 | | 廃油 | 50,740 | kg | インク類 |
| | | 減量 | 138,474 | kg | | | 減量 | 87,544 | kg | |
| | | 合計 | 294,484 | kg | | | 合計 | 251,334 | kg | |

★環境への取組み



使用量・発生量推移

(本社工場)



9、環境活動(本社工場)

(本社工場)

1-1、エコアクション教育



1-2、エコアクション教育



1-3、エコアクション教育



1-4、エコアクション教育



3-1、工場周辺清掃



3-2、工場周辺清掃



4-1 産業廃棄物処理業者視察



4-2 産業廃棄物処理業者視察



10、緊急事態対応訓練(本社工場)

(本社工場)

5-1、消防訓練(夜帯)



5-2、消防訓練(夜帯)



6-3、消防訓練(昼帯)



6-3、消防訓練(昼帯)



7-1、油類流出事故対応訓練



7-2、油類流出事故対応訓練



8-1、排水処理施設事故対応訓練



8-2、排水処理施設事故対応訓練



本社工場・岡山工場

事業継続計画(BCP)の運用実施

★目的 (事業継続計画書の作成)

工場の操業継続を脅かす事態が発生した場合に、当社経営および取引先ならび消費者への影響を最小限に留めることを目的として、操業の早期復旧・継続に向けた有事の対応態勢と行動手順、および平時の運用体制を定めたものである。

★基本方針

1. 当社従業員および全ての関係者の安全確保を最優先に判断し、行動する。
2. 二次災害の防止に努め、当社拠点の近隣地域に迷惑をかけないようにする。
3. 取引先と密に連携し、商品の早期供給再開や供給継続を図る。

継続中

★有事の態勢

事業継続を脅かす事態が発生したら災害対策本部を設置し、各メンバーは事業継続のための行動を行う。
(地震・風水害・感染症・大規模システム障害)

★訓練及び点検・見直し・改善

事業継続計画書の実効性を高めるため訓練を実施し、年1回以上本計画書の点検・評価をし、改善が必要な事項は計画的に改善する。

本社工場・岡山工場

HACCPによる衛生管理の強化

お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けするためにHACCPの理念に基づいた衛生管理を行っています。原材料入荷から製品出荷まで決められた衛生管理基準をクリアした商品を出荷しています。

- 1.★ 製品の殺菌検査のほか機械、器具の拭き取り検査を行い管理基準から逸脱していないかチェックしています。
実績 → 検査の結果数値が良くない場合、現場へフェードバックし改善を実施し再度検査を行う。検査の強化を行う。
評価 → 改善され、良い状態を維持できている。
- 2.★ 週1回の工場内巡視による指摘事項の改善
実績 → 指摘事項の内容を改善を行う。
評価 → 翌週の食品安全会議にて、指摘事項及び改善内容を報告。不備がある場合は、再度改善を行う。
- 3.★ 取引先で開催しているHACCP研修会に参加
実績 → 階層別のHACCP研修会に参加
評価 → 研修会で得ることが、現場で活かせるようになった。作業員へのわかりやすく教育できるようになった。

1と3は
継続中

11、主な環境負荷の実績(岡山工場)

| (岡山工場) | | | | |
|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|
| 項目 | 単位 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 二酸化炭素総排出量 | kg-CO2 | 5,962,371 | 5,110,650 | 3,734,750 |
| 廃棄物排出量 | kg | 2,768,684 | 2,044,815 | 1,625,936 |
| 一般廃棄物排出量 | kg | 1,739,800 | 888,580 | 633,681 |
| 産業廃棄物排出量 | kg | 1,028,884 | 1,156,235 | 992,255 |
| 食品廃棄物排出量 | kg | 66,500 | 793,705 | 676,695 |
| 使用水使用量 | m | 148,000 | 148,072 | 118,205 |

12、環境経営目標(基準年の環境負荷と目標)

環境経営計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容(岡山工場)

(目標 2023年度、各項目基準年度より目標1%削減、食品廃棄物再資源化実施率は95%)

| 項目 | | 単位 | 岡山工場 | | | |
|--------------|-------------------------------|---------|----------------|--------------|--------------|--------------|
| | | | 基準年度 2022年度 | 目標 2023年度 | 目標 2024年度 | 目標 2025年度 |
| 電気 | 使用量 | kWh | 5,278,558 | 5,225,772 | 5,172,987 | 5,120,201 |
| | 原単位(使用量) | kWh/百万円 | 850.42 | 841.92 | 833.41 | 824.91 |
| | 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 2,322,566 | 2,299,340 | 2,276,114 | 2,252,889 |
| LPGガス | 使用量 | kg | 507,773 | 502,695 | 497,618 | 492,540 |
| | 原単位(使用量) | kg/百万円 | 81.81 | 80.99 | 80.17 | 79.35 |
| | 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 1,523,319 | 1,508,086 | 1,492,853 | 1,477,619 |
| 上記二酸化炭素排出量合計 | | kg-CO2 | 3,845,885 | 3,807,426 | 3,768,967 | 3,730,508 |
| 一般廃棄物 | 発生量 | kg | 730,139 | 722,838 | 715,536 | 708,235 |
| | 原単位(発生量) | kg/百万円 | 117.63 | 116.46 | 115.28 | 114.10 |
| 廃プラ | 発生量 | kg | 37,970 | 37,590 | 37,211 | 36,831 |
| | 原単位(発生量) | kg/百万円 | 6.12 | 6.06 | 5.99 | 5.93 |
| 食品廃棄物 | 発生量 | kg | 793,705 | 785,768 | 777,831 | 769,894 |
| | 再資源化実施率 | % | 95% | 95% | 95% | 95% |
| | 原単位(発生量) | kg/百万円 | 127.87 | 126.59 | 125.32 | 124.04 |
| 使用水 | 使用量 | m | 125,606 | 124,350 | 123,094 | 121,838 |
| | 原単位(使用量) | m/百万円 | 20.24 | 20.03 | 19.83 | 19.63 |
| 化学物質使用量 | 洗浄・洗濯に使用するためと、少量使用のため目標に掲げません | | | | | |

| 活動計画 活動項目・取組内容 | 評価 | | 判定 | 目標 2023年度 | 評価及び次年度取組内容 |
|--|------|---|----|--|--|
| | 工場 | 2023年度実績 | | | |
| 【取組内容】 岡山工場 ・事務所、会議室、食堂、更衣室の室内温度管理 ・LED照明の入れ替え ・チラー設備更新 ・各設備の適正設定値管理と不要時の電源OFF、 ・保管庫の照明電源OFF、扉の開放状態厳禁の管理 | 岡山工場 | 電気使用量 5,093,933 kWh 基準年比 96.5% | ○ | 電気使用量 5,225,772 kWh 基準年比1%減 | ・空調及びフィルターの清掃、保管庫の消灯確認。 ・LED照明の入れ替え。 ・夏の猛暑でエアコンの稼働が増え、7月～9月の目標が未達。 ・空調機、冷凍機の入替を検討。 ・排水処理ブロワーのフィルターの取替を実施。 ・トッピング室のソックフィルターの改良。 【次年度取組内容】 ・まだLED照明への入替が進んでない箇所があるので、 入替を進める事。 |
| | | 原単位(使用量) 803.41 kWh/百万円 基準年比 94.5% | ○ | 原単位(使用量) 841.92 kWh/百万円 基準年比1%減 | |
| | | 二酸化炭素排出量 2,282,082 kg-CO2 基準年比 98.3% | ○ | 二酸化炭素排出量 2,299,340 kg-CO2 基準年比1%減 | |
| | | 原単位(CO2) 359.93 kg-CO2/百万円 基準年比 96.2% | ○ | 原単位(CO2) 370.44 kg-CO2/百万円 基準年比1%減 | |
| 【取組内容】 岡山工場 ・蒸気配管の保温強化 | 岡山工場 | LPGガス使用量 495,835 kg 基準年比 97.6% | ○ | LPGガス使用量 502,695 kg 基準年比1%減 | ・蒸気配管の保温強化だけでは省エネ対策が弱い。 ・内番重洗浄機に熱交換器を導入。 【次年度取組内容】 ・サーモグラフィを購入して、配管の放熱箇所を見つけ 取り組みを行う。 |
| | | 原単位(使用量) 78.20 kg/百万円 基準年比 95.6% | ○ | 原単位(使用量) 80.99 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| | | 二酸化炭素排出量 1,487,504 kg-CO2 基準年比 97.6% | ○ | 二酸化炭素排出量 1,508,086 kg-CO2 基準年比1%減 | |
| | | 原単位(CO2) 234.61 kg-CO2/百万円 基準年比 95.6% | ○ | 原単位(CO2) 242.97 kg-CO2/百万円 基準年比1%減 | |

※ 電力、二酸化炭素排出係数 R4年度実績 R5.12.22 環境省・経済産業省公表、R6.7.19一部追加・更新

| | | | |
|------|------------------------|-----------|-------|
| 岡山工場 | (株)エネルギーソリューションアンドサービス | 二酸化炭素排出係数 | 0.448 |
|------|------------------------|-----------|-------|



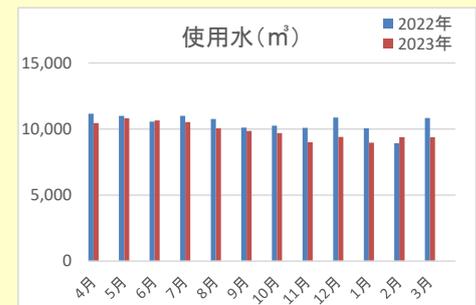
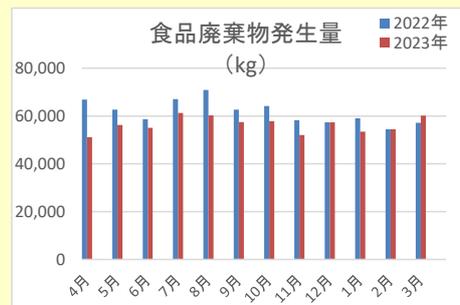
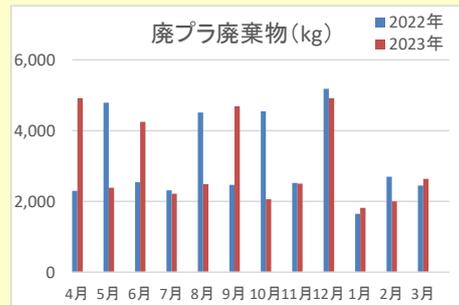
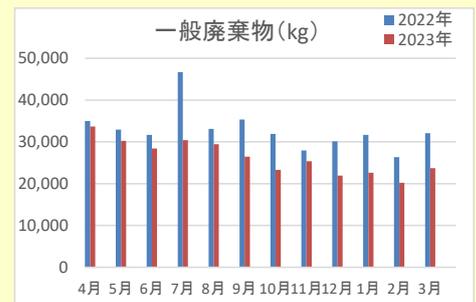
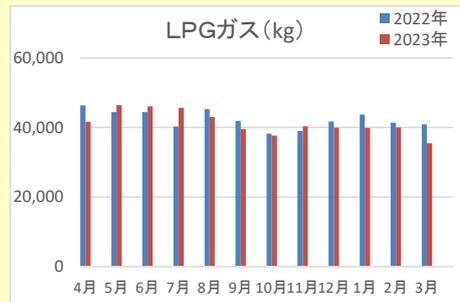
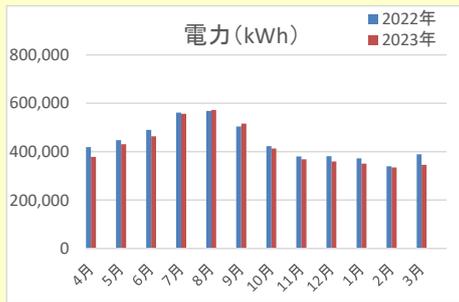
| 活動計画 活動項目・取組内容 | 工場 | 評価 | | 目標 2023年度 | 評価及び次年度取組内容 |
|--|------|---|------|--|--|
| | | 2023年度 実績 | 判定 | | |
| 一般廃棄物の削減 【取組内容】 岡山工場 ・コピー用紙の削減(両面、2IN1・4IN1印刷、裏紙使用) ・コピー用紙の削減(両面、2IN1・4IN1印刷、裏紙使用) ・コピー用紙の削減(両面、印刷、裏紙使用) ・ブルーシートのサイズ縮小による嵩張りの減少 | 岡山工場 | 一般廃棄物発生量 633,681 kg 基準年比 86.8% | ○ | 一般廃棄物発生量 722,838 kg 基準年比1%減 | ・コピー用紙の削減だけでは弱い。 ・クッキングシートの削減ができています。 【次年度取組内容】 ・新たな取り組みにチャレンジ。 |
| | | 原単位(発生量) 99.94 kg/百万円 基準年比 85.0% | ○ | 原単位(発生量) 116.46 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| | | 廃プラの削減 【取組内容】 岡山工場 ・コピー用紙リサイクルによる、透明ゴミ袋の削減 | 岡山工場 | 廃プラ廃棄物発生量 36,900 kg 基準年比 97.2% | |
| 食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上 【取組内容】 岡山工場 ・歩留まり管理 ・見込みロス軽減 ・TP残具材/下処理端材の社販実施 | 岡山工場 | 食品廃棄物発生量 676,695 kg 基準年比 85.3% | ○ | 食品廃棄物発生量 785,768 kg 基準年比1%減 | ・製造部と生産管理の連携で食品廃棄物の量が大幅に減少。 ・中止していた社販の復活。 ・追加製造難易度ランク付け導入による削減。 【次年度取組内容】 ・引き続き、歩留管理の徹底。 |
| | | 再資源化実施率 95% 基準年比 100% | ○ | 再資源化実施率 95% 基準年比100% | |
| | | 原単位(発生量) 106.73 kg/百万円 基準年比 83.5% | ○ | 原単位(発生量) 126.59 kg/百万円 基準年比1%減 | |
| 使用水の削減 【取組内容】 岡山工場 ・製造機器の使用水量モニタリングによる適正使用量管理 | 岡山工場 | 使用水使用量 118,205 m ³ 基準年比 94.1% | ○ | 使用水使用量 124,350 m ³ 基準年比1%減 | ・水の使用量減少傾向にあります。 【次年度取組内容】 ・各課で水の使用量削減取り組み項目に入れる。 |
| | | 原単位(使用量) 18.64 m ³ /百万円 基準年比 92.1% | ○ | 原単位(使用量) 20.03 m ³ /百万円 基準年比1%減 | |
| | | 化学物質使用量 | 岡山工場 | 洗浄・洗濯に使用するためと、少量使用のため目標に掲げません | |

※ 食品廃棄物発生量内訳

| 岡山工場 | 2022年度 | 食品残渣(製造ロス) | 702,290 | kg | LPGガス | 2023年度 | 食品残渣(製造ロス) | 643,500 | kg |
|------|--------|------------|---------|----|--------|--------|------------|---------|----|
| | | 廃油 | 25,825 | kg | 燃料・還元剤 | | 廃油 | 33,195 | kg |
| | | 減量 | 0 | kg | | | 減量 | 0 | kg |
| | | 合計 | 728,115 | kg | | | 合計 | 676,695 | kg |

使用量・発生量推移

(岡山工場)



13、環境活動(岡山工場)

(岡山工場)

1-1、エコアクション教育



1-2、エコアクション教育



2-1、工場周辺清掃



2-2、工場周辺清掃



3-1 産業廃棄物処理業者視察



3-2 産業廃棄物処理業者視察



3-3 産業廃棄物処理業者視察



3-4 産業廃棄物処理業者視察



14、緊急事態対応訓練(岡山工場)

(岡山工場)

4-1、消防訓練



4-2、消防訓練



4-3、消防訓練



4-4、消防訓練



5-1、油類流出事故対応訓練



5-2、油類流出事故対応訓練



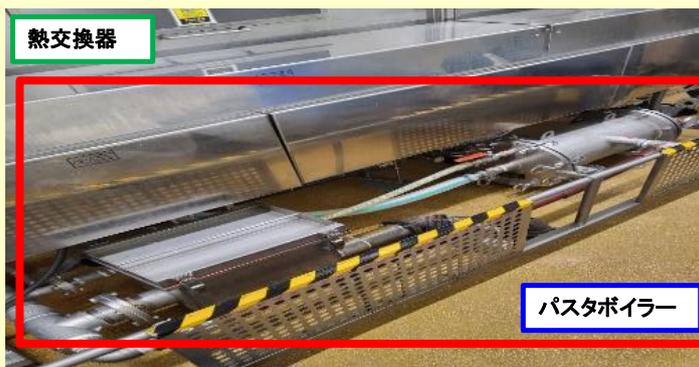
6-1、排水処理設備事故対応訓練



6-1、排水処理設備事故対応訓練



★環境への取組み



熱交換器

パスタボイラー

熱回収

LPGガス使用量の削減

15、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

関連法規遵守状況確認を、2024年3月31日に実施しました。

| 環境関連法規名 | 要求事項 | 遵守評価 | |
|--------------------------|--|------|------|
| | | 本社工場 | 岡山工場 |
| 廃棄物処理法 | ・一般廃棄物収集業者の許可の確認 | 遵守 | 遵守 |
| | ・産業廃棄物収集運搬・処分業者の許可の確認、契約 | 遵守 | 遵守 |
| | ・保管基準 | 遵守 | 遵守 |
| | ・マニフェスト交付 | 遵守 | 遵守 |
| | ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 | 遵守 | 遵守 |
| | ・処理状況の確認 | 遵守 | 遵守 |
| 食品リサイクル法 | ・再資源化率の目標の達成を目指す | 遵守 | 遵守 |
| | ・定期報告義務 | 遵守 | 遵守 |
| 騒音規制法 | ・特定施設の事前届出 | 遵守 | 遵守 |
| | ・地域別騒音基準の遵守 | 遵守 | 遵守 |
| 振動規制法 | ・特定施設の事前届出 | 遵守 | 遵守 |
| | ・地域別騒音基準の遵守 | 遵守 | 遵守 |
| 水質汚濁防止法 | ・特定施設の届出 | 遵守 | 遵守 |
| | ・排出基準の厳守 | 遵守 | 遵守 |
| | ・排水濃度の測定・記録・監視 | 遵守 | 遵守 |
| 省エネ法 | ・エネルギー管理統括者・管理企画推進者・管理者の選任・解任届出 | 遵守 | 遵守 |
| | ・中長期計画書、定期報告書の提出 | 遵守 | 遵守 |
| フロン排出抑制法 | ・登録充填回収業者による適切な引き渡し | 遵守 | 遵守 |
| | ・証明書の保管 | 遵守 | 遵守 |
| | ・簡易点検、定期点検 | 遵守 | 遵守 |
| | ・点検記録の保管 | 遵守 | 遵守 |
| | ・フロン類算定漏洩量の報告 | 遵守 | 遵守 |
| 消防法 | ・防火管理者の選任 | 遵守 | 遵守 |
| | ・定期点検、記録の保管(3年間) | 遵守 | 遵守 |
| 電気事業法 | ・月次点検、定期点検 | 遵守 | 遵守 |
| 水道法 | ・貯水槽清掃、水質基準の遵守 | 遵守 | 遵守 |
| 高圧ガス保安法 | ・高圧ガス施設点検、保安責任者届出 | 遵守 | 遵守 |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) | 第1種指定化学物の排出量及び移動量の届出 | 遵守 | 該当なし |
| | 性状及び取扱いに関する情報(SDS)の受取 | 遵守 | 遵守 |
| 浄化槽法 | ・保守点検、清掃、記録の保管 | 該当なし | 遵守 |
| | ・定期水質検査 | 該当なし | 遵守 |
| 大気汚染防止法 | ・ばい煙発生施設の届出 | 遵守 | 該当なし |
| | ・排出基準の厳守 | 遵守 | 該当なし |
| | ・排出濃度の測定・記録 | 遵守 | 該当なし |
| 水道法 | ・第5次水質総量規制 | 該当なし | 遵守 |
| 群馬県小水道条例 | ・小水道条例施設における衛生管理状況調査 (水道水質調査実施回数及び結果の調査票) | 遵守 | 該当なし |
| 群馬県の生活環境を保全する条例 | ・地下水採取状況の報告 | 遵守 | 該当なし |
| 悪臭防止法 | ・規制地域内で特定悪臭物質の排出基準を遵守 | 遵守 | 該当なし |

- ・環境関連法規制の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
- ・再資源化率は97.6%（本社と岡山、両工場で）。（食品リサイクル法、事業者ごとの基準実施率(95%)は達成。）
- ・なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

16、代表者による全体の評価と見直し・指示

(1) 全体を通して

我々を取り巻く事業環境もエネルギー価格は昨年後半から下落傾向にありましたが、円安や物価上昇など今後も不透明な状況に変わりありません。

一方、コロナ5類移行に伴い生活も徐々に日常を取り戻し、外国人観光客インバウンド消費増加と明るい兆しも見え始めております。

このような状況の中、当社に於かれましては、新商品開発への継続的なチャレンジ、原材料コストと製造コスト削減、生産性向上、製造の基盤である良品製造へ従業員の皆様一人一人のご尽力のお陰で、大きなトラブルもなく、売上業績に結果として表れてきております。

厳しい状況は続きますが、会社としても太陽光発電や都市ガス導入など、その他必要に応じて計画的に投資も対応して参りますので、皆で知恵を出し合い日々の改善活動へ併せて提案頂ければと思います。

(2) 指示内容

① 食品廃棄物発生量の抑制について

取り組んでいる食品ロスの削減も環境負荷の改善の理解が浸透してきたと思います。改善はされていますが、まだまだ使用できる食材を廃棄しているのが見受けられます。

② エネルギーコスト削減

本社工場では2024年2月中旬より都市ガスへの燃料転換、岡山工場では2024年度下半期に太陽光設置し運用します。

新しいエネルギー使用に伴い、データ収集及び省エネに繋がる設備・機器の導入を検討し、さらなるエネルギーコスト削減に努めてもらいたい。

また数十年経過している設備・機器があるため経年劣化でエネルギー効率が悪化していると考えられるので、更新を検討するようお願いいたします。

原単位の数値を把握し、原単位管理に基づく工程改善、設備機器点検・修理・清掃・更新を各部署で実施してもらいたい。

③ 環境関連法規の遵守について

本社工場・岡山工場、事故が発生しないよう、各設備の保守点検を徹底し未然防止に務めるようお願いいたします。

定期的な環境法規の確認を忘れずに。

必要に応じて、訓練・教育を実施すること。

(3) 総括

当社はエコアクション21の活動して5年目となりますが、従業員の協力もあり環境活動が浸透してきていると感じています。

さらなる環境活動を進めるには、従業員の教育はもちろん社員の教育を充実していきたいと思っております。

環境改善活動をするのには、専門家から助言をいただいて活動するのも手段のひとつなので、色々聞いて活動を強化してもらいたい。

引き続き改善活動や環境活動を継続していく中、創意工夫をし各活動を実践してもらいたい。

更なる課題として環境活動の対応には経費がかかることがあります。物価高騰・環境管理・働き方改革・人材育成など様々なキーワードがありますが、個々のスキルアップをしよう1段階上を目指してもらいたい。

環境改善活動の取組をことは、企業の重要な責任の一つです。会社の発展と環境の両立において重要な活動だと認識しているので、これからもしっかりと取り組んでいきます。

指示日：2024年07月29日

ロイヤルデリカ株式会社 代表取締役社長

木賀田 昌彦

環境経営方針

変更なし

変更あり

環境経営目標・計画

変更なし

変更あり

実施体制他

変更なし

変更あり



我社の社会的使命

**安全でおいしい商品をつくり
供給し続けること**



ロイヤルデリカ

17、みんなの声

本社工場 担当者

エコアクション21の取り組みする中、従業員への落とし込みが非常に難しいと感じています。外国人労働者が多く、言葉が通じない場合があります。その際は自分が見本となる行動をして教えたり、日本語が大丈夫な外国人労働者に伝えてもらうよう努力しております。効果が出た際は、ほめてやると喜んでくれるので、大変うれしく感じます。エコアクション21の取り組みでコミュニケーションがとれ環境負荷の改善にもなるので、これからも環境改善をしていきたいと思っています。

担当者

徐々に環境改善していると実感しています。より一層改善していくために、ハード面・ソフト面でどのような事をしていくべきかを考えて実行していかなくてはなりません。色々なメーカーの話や、展示会等見に行き効果が出る改善を進めていきたいと思っています。

担当者

エコアクション21の取り組みする上で、やはり本社工場及び岡山工場とコミュニケーションをとり、良い改善は水平展開して進めていくべきだと思います。両工場とも同じゴールに向かって進んでいるので、良い環境改善提案をしていきたいと思っています。

工場長

エコアクション21の取り組み始めて5年目になり徐々にではありますが、省エネ活動が根付いてきたと感じています。ですがまだまだ取り組むべきことが沢山あるのではないかと思います。両工場コミュニケーションをとり、効果がある取り組みは実施していきたいと思っています。良い取り組みが潜んでいると思うので、皆で知恵を出し合って省エネ活動をしていきます。

岡山工場

担当者

エコアクション21の取り組みを継続していく中で従業員の省エネ意識の高まりを感じます。成果や目標が見える化されているので全員が同じゴールに向かって進んでいると実感しています。また従業員の提案を具体的な活動に繋げてコスト削減成果を出すことが出来ました。みんなと一緒に取り組んだ結果、達成感と一体感が生まれモチベーションの向上に繋がりました。引き続き従業員からの声を大切にチームとしてエコアクション21の活動を行いたいと考えています。

担当者

エコアクション21に取り組むことで、使用した電気や水、紙などの無駄がないか考え、減らすことができています。また環境のために節電や節水などを呼び掛けていると、従業員さんの方からもここは環境のために見直せるのではないかと提案して下さることもあります。引き続き従業員さんとしてしっかりコミュニケーションをとって、会社全体で環境への意識を高めていきたいと思っています。

担当者

エコアクション21の取り組みを行うことで環境への意識が会社全体で高まってきていると感じます。環境に配慮して無駄を減らしていく行動は、結果的に会社の経費削減にも繋がる面が多々あり、良い循環が出来ていると思います。昨今の光熱費高騰に対しても、当活動が最適な対策として効果を発揮しています。引き続き、この活動に積極的にに関わり、環境の保全、併せて企業価値の向上につなげていければと思います。

工場長

エコアクション21に取り組む始めて、いまでは全従業員が節電・節水などのエコ活動が浸透しています。皆さまのエコ活動のおかげで、大きな成果が生まれ、一昨年からの光熱費の高騰も対処することができました。今後は持続的にエコ活動していく事が大切になって来ます。無理のない範囲でエコ活動を続けて行って下さい。

編集後記

安全・安心な商品を毎日お客様にお届けし、「美味しい」と感謝されることです。また業務は日々の改善活動の連続です。仕事をしながら「どうしたらもっとよくなるか」、例えばミスをなくすためににはどうしたらよいか、効率を上げるにはどうしたらよいかなどを提案し、結果に結びつくことでモチベーションも上がります。そして当社は**チームワーク**を重視しています。時には忙しいこともあります。また、難しい課題に取り組むこともあります。でも、チーム一丸でクリアすることでみんなで達成感を味わうことができます。

